

令和5年度がんばる地域応援プロジェクト選考委員会 議事要旨

日時：令和5年7月9日（日曜日）午後1時～4時5分

会場：三鷹市市民協働センター2階 第一会議室（オンライン同時配信）

出席者：選考委員4名、発表者8名（各団体1名）、発表団体関係者6名、事務局9名

傍聴人：8名

【配布資料】

- 1 令和5年度選考基準
- 2 申請団体一覧
- 3 各団体発表資料
- 4 当日のタイムスケジュール

【次第】

- 1 開会
- 2 選考委員紹介、選考委員長・副委員長挨拶
- 3 本日の進め方について
- 4 各団体による発表、質疑応答（前半5団体）
- 5 選考委員からの講評
- 6 各団体による発表、質疑応答（後半3団体）
- 7 選考委員からの講評
- 8 閉会
- 9 選考（非公開）

① 井口協和会「コロナからの子ども会復活プロジェクト」

選考委員長：

- ・重要で画期的な取り組みである。
- ・子ども会に注目した研究は少ないが、全国的に危機的な状況であると考えられる。
- ・町会が取り組むのは重要だと思う。
- ・町会のなかで子ども会を合併して子ども会を活性化させるということが考えられる。
- ・質問 1…合併するのか？
- ・質問 2…宣伝して参加が見込めるような工夫はあるか？

井口協和会：

- ・空白地域の子どもでも、近くの子ども会に加入することが可能。
- ・学校を通じて子どもたちにPRすることを考えている。

選考副委員長：

- ・質問…4つの子ども会のうち、東が最も多いのか？地域によっての偏りは？

井口協和会：

- ・そこまで把握していないが、低学年が加入者のメイン。
- ・役員になりたくない保護者も多いため、町会が力を貸してフォローしたい。

選考副委員長：

- ・組織としての継続性をどう維持していくか、そこが重要となる。

選考委員：

- ・質問…会員数の減少は、子どもの実数が減っているのか、保護者の考え方か？

井口協和会：

・原因の1つは保護者が役員をやりたくないということ。また、活動ができなかったのも、PRできていなかったことも原因のひとつ。子どもは年がたつと入れ替わっていくので、減っていくことは仕方なかった。

② 井の頭一丁目町会「いのいちキッズを中心に多世代交流」

選考委員長：

- ・これまでの取り組みの順調な発展。コロナでの中断に伴う影響がみられる。
- ・まちの先生は、横浜市でデータベース化されている例がある。井の頭一丁目町会でもデータベース化できたら理想。
- ・質問…先生は何人くらいいるのか？

井の頭一丁目町会：

- ・いま募集している状況。つながりをつくれるよう、徐々に増やしていきたい。先生が増えるようなら、毎週でもやりたい。

選考副委員長：

- ・防災への取り組みをきっかけとして、地域のつながりをつくれている。
- ・質問…今までで、子どもの反応が最もよかったものは？

井の頭一丁目町会：

- ・国際基督教大学（ICU）の学生が居場所を作ってくれたのが一番大きかった。年があまり離れていないお兄さん、お姉さんがいたことがよかった。
- ・一方で、ICUとは地理的に遠く日常的な参加が難しいため、地域の学生など若い世代に参加してもらうことで、子どもたちも喜んでくれるかな、と思う。
- ・お正月会も反応がよかった。ワークショップも、何か作るというのが楽しかった様子。
- ・全体的にみんな喜んでくれた。
- ・企画を考えるのが親世代なので、子どもたちのことをよくわかっている。

選考副委員長：

- ・10歳くらい上の年の子たち（20歳くらい）だと、子どもたちとの関係性がちょうど良いのかもしれない。

井の頭一丁目町会：

- ・杏林大学の学生たちにも協力いただきたい。

選考副委員長：

- ・子どもの自由研究のハードルが高くなっている。今回の事業を自由研究とも絡めたらよいかもしれない。

③ 下連雀六丁目防災の会「防災ひろばに応急救護普及車がやって来る！連雀地区防災訓練の帰りに寄ってね！」

選考委員長：

- ・狙いや事業の組み立てはなかなかいい。連雀地区防災訓練との同日開催がよい。
- ・応急救護ができる人が地域内にいることは重要。だが、継続して訓練することが必要。
- ・質問…防災の会のメンバー以外で、応急救護ができる人を増やす工夫は？

下連雀六丁目防災の会：

・まずは応急救護車を見てもらう。周知する。そのうえで、一緒にやりませんか、と発信していきたい。

選考副委員長：

- ・質問 1…下連雀八丁目防災の会との連携はどうなっているのか？
- ・質問 2…今年度の YouTube はどう編集・掲載するのか？

下連雀六丁目防災の会：

・動画撮影者と同じ方に編集を依頼。防災の会のメンバーの一人。

選考副委員長：

・一回では体得できない。年に2回やる、季節的なものを加えるなど、継続性を考えるといいかもしれない。さらに、下連雀八丁目防災の会とも連携できるといい。

選考委員：

- ・質問 1…参加される方々の相互の連帯感など、差はあるか？
- ・質問 2…町会になる、ならない、は別にして、今後町会に代わる組織の在り方を考えているか？

下連雀六丁目防災の会：

・つながりは強い。広がりも徐々にできている。
・今後は、今までの町会のイメージとは違うあり方が考えられれば、新しい形の組織を作っていきたい。
・今年度の総会で組織化を諮る可能性もある。

選考委員：

- ・従来町会とは違った角度からの考え方が出てくると面白い。

④ 井之頭町会「なますさんの落語会～おなかをかかえてわらったら、じしんのこともわかっちゃうのだ～」

選考委員長：

- ・伝統ある町会で、ここぞというときに申請してくれている。
- ・若い方が説明に来ていて、期待がもてる。
- ・緻密に考えられていて、子どもに着眼されている点も素晴らしい。
- ・質問…噺家さんへの注文は多いが、打ち合わせなどが可能な噺家さんなのか？

井之頭町会：

- ・間に入ってくれるマネージャー役の方とご相談を重ねており、問題ない。

選考副委員長：

- ・質問…来場者に対して、次につながる活動を周知するような仕掛けはあるか？

井之頭町会：

- ・まずは防災訓練につなげていきたい。
- ・赤ちゃんとママの会、クリスマス会もあるので、町会として周知に取り組みたい。

選考副委員長：

・一緒に継続していける仕組みがあるとよい。今回の事業からテーマを広げたり、さらに別の事業に展開していくことを考えながら取り組んでもらえたらと思う。

選考委員：

・広報の手段は、回覧板だけでは町会の方しか見られない。噺がおもしろいことは期待できるので、町会以外の方にも見てもらえるような広報の工夫をしてほしい。

⑤ 牟礼中町会「町会会員宛 花鉢配布」

選考委員長：

- ・町会の地域が道路整備事業の影響を受けているという事情を初めて知った。
- ・質問…地域課題を見据えた事業ということだが、会員でない家には鉢がなく、会員の家には鉢がある、というのは地域全体としてどんな彩りをつくることを目指しているのか？

牟礼中町会：

- ・戸建ての会員が多いため、家の外に飾ってもらう。

選考委員長：

- ・質問…区域内の何割が加入している？

牟礼中町会：

- ・約3割で、世帯数は前年から減少している。

選考副委員長：

- ・質問…将来的な目標はよくわかったが、花を増やして地域全体に緑・彩りを増やしていくことが地域にどう役立つのか、イメージはもっているか？

牟礼中町会：

- ・花を飾ることによって、通りがかりの人同士が話すきっかけとなり、町会員間のつながりが増えると考えている。

選考副委員長：

- ・取り組みが地域全体に広がっていくような工夫をしてほしい。

牟礼中町会：

- ・東多世代交流センターが地域の真ん中にあるので、そこで何かやりたいと考えている。

選考委員：

- ・鉢と一緒にLINEのQRコードを配るのは工夫がみられる。行政でもデジタル化を推進していきたいので、結果を教えてください。

牟礼中町会：

- ・参加者が多くなるのはよいが、どの情報を共有するのか、という判断が重要となるので、検討したい。

選考委員：

- ・費用内訳は花の代金がほとんど。花を配るだけではないことは理解できたが、発表会の際にどこを工夫したか、花を配っただけではないことがわかるように準備してほしい。

☆前半振り返り

選考委員長：

・発表者の中に新しい町会会員が多くうれしく思う。発表者が生き生きとしていた。提案内容が緻密に考えられており、プレゼンもしっかりしていて、各町会の真剣さが伝わってきた。

・コロナ禍が終わった後に町会活動がなくならないように頑張ってもらいたい。

選考副委員長：

・地域活動や町会活動に関心のある層以外の人たちをどう巻き込んでいくのか、に着目した工夫が共通して多くみられた。

・どうやったら楽しく感じるか、参加してもらえるか、町会活動を支えてもらえるか、を考えることが重要である。

・町会活動は継承されるべきだ、という義務感が今まではあったが、これからは「楽しさ」が入り口にあってもいい。

・地域ごとに人材等の環境が大きく変わるわけではないので、町会間で情報共有もしながら、進めていってほしい。

⑥ 下連雀若葉会「関東大震災 100 年から学ぶ防災」

選考委員長：

- ・専門的な資料館を訪れるのは正しい知識の獲得のために大切なので、良い取り組みだと考える。
- ・質問 1…参加人数は何人を予定しているのか？
- ・質問 2…参加した人以外でも町内全体に広めていくために、何か工夫する予定はあるか？

下連雀若葉会：

- ・11 月頃に、大型バス一台くらいの人数を予定している。
- ・連雀八幡（地域のお祭り）でバスツアーの宣伝をする予定。
- ・防災リーダーを何人も育てていきたい。

選考委員長：

- ・質問…リーダー育成がメインなのか、地域交流をメインにするのか、どちらを指向しているのかによって、発表会の型式や内容が変わる

下連雀若葉会：

お餅つき会で報告できれば良いと思う。

選考副委員長：

- ・新しい企画で、面白いと感じる。
- ・質問…特定の参加者のみが恩恵を受けるが、参加費の本人負担は設定するのか？

下連雀若葉会：

- ・今のところ、助成金+町会費で賄う予定。

選考副委員長：

- ・若葉会の会員のみが対象なのか？

下連雀若葉会：

- ・メインは若葉会の会員だが、余裕があれば下連雀六丁目防災の会の方々などにもお声がけしたい。
- ・若葉会の会員以外の人とも最終的には接点が作れると良いと思う。

選考副委員長：

- ・学んだ成果を地域にフィードバックできる機会を作ってもらいたい。
- ・会員同士で市外に出掛ける内容は新鮮である。

選考委員：

- ・質問…学んだ成果を共有するためのワークショップは、帰ってから実施するのか？

下連雀若葉会：

- ・行き帰りのバスの中で行う予定。

⑦ 大沢宿町会「1日夢広場 2023」

選考委員長：

- ・こんなにたくさん竹を用意できるのかと思ったが、大沢の地の利を活かして準備したことを評価したい。
- ・質問…若い世代に町会の大切さを伝えたい、とのことだが、具体的にどう伝えるのか？

大沢宿町会：

- ・七夕まつりは、参加人数 490 人、スタッフ 40 人。
- ・イベントを何回も続けていき、町会活動の良さや楽しさを少しずつ伝えていきたい。今はそのための準備期間であると考えており、いきなり「町会に入ってくれ」とは言わない。

選考委員長：

- ・去年のこのイベントを契機に、子どもたちが参加できる地域スポーツクラブが発足したのは素晴らしい成果。

選考副委員長：

- ・野球部が地域スポーツクラブとして 26 年ぶりに戻ってきたのは大きい。
- ・質問…三町会で一緒にやって、よかったことは何だと考えているか？

大沢宿町会：

- ・以前より会長同士の距離感が近づいた。
- ・役員同士の交流会でも、町会同士のつながりができている。

選考副委員長：

- ・各町会に新しい人が入ることも大切だが、人口自体が減っていることもあるので、町会同士がお互いを補える関係性を構築できるとよい。

選考委員：

- ・質問…講師謝礼はどの場面で発生するのか？

大沢宿町会：

- ・野球の審判に対して支払いする。

⑧ 都営井の頭四丁目アパート自治会「みんなでクリスマス」

選考委員長：

- ・新たな取り組みとして楽しく参加できそうな内容である。
- ・実施までのスケジュールをより詳細に検討してほしい。
- ・質問…クリスマス・リースの作成は、全部一日で行うのか？そのための事前準備は予定しているか？実行委員会のような、組織的な対応ができているのか？

都営井の頭四丁目アパート自治会：

- ・9月から準備開始予定で、役員11名で準備を進めていく予定。まずは日程を決めるところから始める。

選考副委員長：

- ・質問1…長い間、自治会のみんなで行うイベントはなかったのか？
- ・質問2…どんなきっかけで応募しようと思ったのか？

都営井の頭四丁目アパート自治会：

- ・2年ごとに役員が総入れ替えとなり、今年の4月から始めたばかりの役員の間で、顔見知りを増やすにはどうしたらよいかと検討した。その過程でがんばる地域応援プロジェクトを知ったので、審査を通過したらイベントを開催しよう、ということになった。

選考副委員長：

- ・質問…役員11名と子どもたちで構成されているメンバーでやるのか？

都営井の頭四丁目アパート自治会：

- ・子どもには、ゲームコーナーを担当してもらおう。

選考副委員長：

- ・役員が2年ごとに代わるということで、取り組んできた記録をしっかりと残していくことが大切。それが継続につながる。

選考委員：

- ・質問…都営アパートは高齢化が課題となっている所が少ないが、都営井の頭四丁目アパート自治会はどうか？

都営井の頭四丁目アパート自治会：

- ・課題だが、子どもも増えてきている。

☆後半の振り返り

選考委員長：

- ・生き生きとした説明を聞くことができ、うれしく思う。
- ・子どもを主役に据えた企画が多く、好感をもった。
- ・コロナ禍で大きな影響を受けた子どもたちについて、人との関係の作り方など心配されている。そのような中で子どもを中心に考えたイベントが多いのはよい。
- ・子どもに楽しいことをやってほしい、という会員からの声をくんで企画した、というのは町会活動の良さである。
- ・コロナ禍以降では、それ以前に町会が持っていた弱みが強く出てしまうことが多いが、三鷹市では本事業の応募件数が増加に転じた上、新団体も加わっているなど、三鷹市民が元々持っている力の強さを感じている。

選考副委員長：

- ・申請内容を見ると継続、新規どちらもあり、特に新規事業については、三鷹市市民協働センターや市による個別の相談支援の効果も一定程度あっただろう。
- ・コロナ禍で高校3年間はオンライン、という世代が大学生になる時期を迎えている。学生時代にしかできないさまざまな経験をできないまま成長してしまった子どもが多いので、大人が楽しんでいる姿や、面白いことをやっている様子を見せてほしい。